

[た よ り]

## 広島県支部だより

土谷晋一郎

### 1 支部の概況

広島県は、中国地方にある人口約 290 万人の県です。三次保健医療圏は一つで、全県となっております。二次保健医療圏は、広島、広島西、呉、広島中央、尾三、福山・府中、備北の 7 圏域に分かれています。一次保健医療圏は、ほかの地域と同じく、市町村単位で区域割りされています。

2002 年 3 月 31 日現在、広島県下で、人工透析を受けている患者の総数は 5,647 名です。透析施設は、県内に全部で 96 施設あります。二次保健医療圏毎の透析患者数と施設数は、それぞれ、広島：2,458 人・30 施設、広島西：259 人・4 施設、広島中央 314 人・8 施設、呉：637 人・10 施設、尾三：626 人・13 施設、福山・府中：1,085 人・22 施設、備北：268 人・9 施設となっております。

日本透析医会広島県支部は、広島県透析連絡協議会という名称を使っております。日本透析医会が、1979 年 4 月 15 日都道府県透析医会連合会として結成されましたが、それ以前に、広島県では広島県透析連絡協議会を立ち上げていましたので、名称変更せずに、現在に至っております。

広島県透析連絡協議会には、県内の 83 透析施設が会員となっております。非常に高い組織率です。役員は以下となっております。広島県全域から、かたより無く役員を選出しております。

名誉会長：辰川自光

顧問：原田 知

会 長：土谷晋一郎

副 会 長：山下達博・浜口直樹

幹 事：高杉敬久・川合 淳・大上和行・安田克樹・高須伸治・小根森元・碓井公治

監 事：田中一誠・頼岡徳在

### 2 災害対策について

2004 年に、中国 5 県で正式に中国地区透析医療災害対策会議が発足し、ホームページにて、日本透析医会とリンクしております。広島県透析連絡協議会では、災害時連絡網（メーリングリスト、携帯電話）を作成し、二次保健医療圏ごとに、中核病院、副中核病院を選定しています。

広島：土谷総合病院・JA 吉田総合病院（副）  
原田病院（副）

広島西：阿品土谷病院・JA 広島総合病院（副）、  
博愛病院・呉共済病院（副）

広島中央：本永病院・安田病院（副）

尾三：土肥病院・興生総合病院（副）

福山・府中：山陽病院・寺岡記念病院（副）

備北：市立三次中央病院・庄原赤十字病院（副）

2001 年 3 月 24 日午後 3 時 28 分、瀬戸内海西部の芸予諸島付近を震源とする大きな地震が生じ、中国・四国地方を中心に西日本の広い地域が揺れました。広島県大崎町、河内町、熊野町等で震度 6 弱、愛媛県松山市、今治市、広島県広島市、呉市、山口県岩国市などで震度 5 を記録しました。この地震により、中国・四国 7 県で死者 2 人、負傷者 175 人、建物の被害

5,000棟以上等の被害が生じました。建物被害については、呉市での被害が最も顕著でした。高杉会員（博愛病院，呉市）は、自院の地震での被害を報告してくださり、われわれは、大いに啓蒙を受け、この経験が今日の災害時対策に大いに役立っております。

### 3 広島県腎友会

広島県透析連絡協議会は、毎年一回秋頃に、透析患者の団体である広島県腎友会と懇談する機会を設けております。患者からの要望・苦情などをお聞きしております。昨年は、災害（地震・台風など）発生時の透析施設間の連携、広島県透析連絡協議会の対応について、広島県腎友会からするどい質問がございました。広島県腎友会は、1970年4月26日人工腎友会（1972年に広島県腎友会と改名）として、全国で初めての透析患者の互助会として産声をあげました。発足当時の会員は約50名でした。

1967年に人工透析療法は、健康保険の対象となり、組合健保、共済組合の被保険者（本人）は医療費の負担がなくなりました。しかしながら、その家族および国保の人には、3割から5割の自己負担があり、1970年当時で平均的な人で月十数万円、多い人では三十万円を越える高額な自己負担でした。そのころは、大学卒の初任給が月四万円強、サラリーマンの平均月収が十万円程度だったそうです。このような状況下で、医療費を捻出するため、家屋敷を売ったり、退職金を前借りする例もまれではありませんでした。生活保護を受ける方便として離婚する例や高額医療費を払い続ける家族に迷惑をかけるからと自ら命を絶つ者もいました。

腎不全患者およびその家族が、高額な治療費の自己負担と人工透析施設の不足などを解消するため、衰弱しきった体にむち打ち、お互いに励ましあいながら、国・県・市町村に対して陳情を始めました。1971年6月に国レベルで問題の解決を図るために、広島県腎友会が呼びかけて、全国腎臓病患者連絡協議会（1996年社団法人全国腎臓病協議会と改名）が設立されました。全国組織となればやはり本拠地は東京ということで、日大医学部附属板橋病院の患者による「ニーレの会」に中心になっていただいたとのことです。全腎協は1971年10月国会請願を行い、その後も粘り強く陳情を続け、1972年には、人工透析医療費が更生医療

の給付対象に認められるなどの大成果を得ました。

### 4 中国腎不全研究会

中国5県持ち回りで、中国腎不全研究会が毎年秋頃開催されています。広島県透析連絡協議会の会員も中心となって積極的に参加しています。2004年9月19日には、島根県済生会江津総合病院東堀裕司先生が会長になられて、第13回中国腎不全研究会が広島国際会議場で開催されました。182題の演題、総数981名の参加者でした。

### 5 中四国透析研究懇話会

中四国という名称がついておりますが、会員22名で、うちわけは、山口県の透析医3名、広島県の透析医19名です。広島県の透析医19名は、全員広島県透析連絡協議会の会員です。現在、大上先生が会長をされております。1980年頃に、透析医の親睦を図ることと、透析技術と治療法の研究および情報交換により医療の向上を図ることを目的として、設立されました。新年会（1月か2月）、幹事会（5月）、総会（7月）、学術講演会（10月）が年間行事です。

もともと、広島県の透析医療の草分け的存在だった先生方の親睦を深め、情報交換することを目的としたクローズドの会であったと聞いております。このような透析医の親睦を図る懇話会の存在というのが、広島県支部の特徴であると思っております。この会の会長を原田先生がなさっておられる時に、クローズドという性格を改め、オープンなスタイルにされ、10月の学術講演会を広く御案内するようになりました。

### おわりに

来年度の診療報酬改定では、またしても医療費削減が叫ばれております。2002年度診療報酬改定では、史上初の診療報酬本体の引き下げ（マイナス1.3%）が行われ、引き下げ幅は、全体でマイナス2.7%と過去最大でありました。

この時、診療報酬本体引き下げに最も貢献させられたのが、人工腎臓でありました。「4時間未満」、「4時間以上5時間未満」、「5時間以上」の3段階の時間区分が廃止され、透析点数が一本化されました。さらに外来血液透析での食事加算が廃止されました。腎不全治療において、食事指導は生命線ということは周知で

あるにもかかわらず、さらに、透析時間が長いほうが予後がよいという明白なエビデンスを無視するひどい改定でした。

来年度改定では、われわれ日本透析医会が透析医療の質と安全を守らねばならないと強い危機感を抱いております。